

第 3 章 業績測定・実績評価（チェックアップ）

業績測定・実績評価（チェックアップ）は、気象庁の健康診断のようなものです。気象庁の目標に対する改善の状況を数値や内容により測定・分析するとともに、その改善に向けた業務の取組状況や達成状況について評価するものです。

1 取組の概要

5 年程度を目途とする業績測定に用いる業績指標と目標値は、平成 14 年 3 月に設定（14 年 7 月改定）し、実績評価に係る年度ごとの業務目標も 14 年 3 月に設定しました。

15 年度には、14 年度の業績測定と業務目標の実績評価を行い、その結果を、この業務評価レポートに掲載しました。

また、15 年 5 月には、実施庁として 14 年度に気象庁が達成すべき目標について、国土交通大臣による実績評価がなされ、公表されました。

（国土交通省ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/annai/kishou/kishou.html>）

なお、平成 15 年度は業務指標と目標値は引継ぐとともに、業務目標を 15 年 3 月に設定しました。

2 業績測定に関する業績指標・目標値の設定

業績指標・目標値とは、気象庁が基本目標として掲げた気象情報が利用されることなどにより、国民にもたらされる成果（アウトカム）に関連する施策等の達成度合いを定量的に把握するために設定した指標とその数値目標のことです。5 年程度を視野に入れて、13 の業績指標とその目標値を 14 年 3 月に設定しました（表 3 - 1）。

（14 年 7 月には、一部の業績指標について目標値の追加等を行っており、表 3 - 1 はこれを反映しています。なお、各業績指標・目標値の考え方等の詳細については、気象庁ホームページを参照願います。）

業務評価は国民の視点に立った成果重視の行政を目指すものであることを踏まえ、業績測定に係る「業績指標」の設定にあたっては、まず、「気象業務の評価に関する懇談会」（第 7 章参照）で意見・助言をいただき、気象庁が作成した「気象業務の評価（チェックアップ）に関する業績指標」の素案について、13 年 11 月 2 日から 12 月 17 日までの期間に、気象庁ホームページ等を通じてご意見募集を行いました。

その結果、33 機関（自治体等 17 機関、報道 6 機関、事業者 7 機関、個人

3 名）から、総数約 100 件の貴重な意見を頂きました。頂いた意見は、気象庁の考え方とともに、ご意見募集結果として、14 年 7 月に、「気象庁業務評価レポート（平成 14 年度版）」で公表・回答しました。

3 実績評価に関する業務目標の設定

気象庁の基本目標（関連施策等）に関して、その達成に向けて効率的・効果的な業務運営を推進するため、5 年程度を視野に入れた目標設定ができない業務を、年度ごとに具体的にを行うべき「業務目標」として設定しています。数値目標がある、業務の開始・実施の有無が明確、など評価時の客観的な測定・判断が可能であるものを 15 年 3 月に、「気象業務に関する 15 年度の業務目標」として設定（13 の基本目標に関して 39 の業務目標を設定）しました（表 3 - 1）。これらの目標には、15 年度の重点施策の企画立案などを踏まえて新規に設定した目標と、14 年度の実績を踏まえて継続し、内容を再設定した目標があります。

4 業績測定・実績評価結果

業績指標に関する 14 年（度）の業績測定、また 13 年度末（14 年 3 月）に設定した「14 年度の業務目標」に対する実績評価を行いました。

評価の結果は、表 3 - 2 のとおりです。評価については、「達成度」とそれに向けた「取組」（手段や進め方など業務運営プロセス）の 2 点から評価し、その表現は次のパターン化した文言を使用しました。

達成度

達成の判定が直接的に可能な業務指標と業務目標に対する表現
 目標を達成、 目標はほぼ達成、 目標は未達成だが進展あり、
 目標は未達成

達成予定年度に至っていない業績指標と業務目標に対する表現
 目標に向けておおいに進展、 目標に向けて進展あり、
 目標に向けてあまり進展なし、 目標に向けた進展なし

ただし、業績指標・業務目標として設定した内容の性格から達成度の客観的な判断が難しい場合は、この「達成度」について評価しないで、次の「取組」のみの評価を行うことがあります。

取組

適切性、有効性、効率性、積極性の 4 つの観点から、次の 4 段階で評価し、組合せによる表現
 適切（積極的、効率的、有効） 概ね適切（効率的、有効）

あまり適切（効率的）でない、適切（効率的）でない

- ・適切性は、取組の内容が目標の達成の方向に向いているか、あっているかどうかの観点（通常は、 の表現）
- ・積極性は、目標達成に向け積極的に進んで取り組んだかどうか（数値目標を大きく超えたか）の観点（「達成度」が の場合や取組が特によい場合などに用い、 の表現のみ）
- ・効率性は、取組が効率よく（達成予定年度あるいは期日より早く達成されたか）、無駄がないか（取組のコストが小さいか、また、取組の結果によりコストが小さくなるか）どうかの観点
- ・有効性は、取組の結果、基本目標の進展に貢献しているかどうかの観点（業務目標の「達成度」が、 の場合に用い、 の表現のみ）

これらの評価結果を作成するにあたり、「気象業務の評価に関する懇談会」の委員から次の通りコメントを頂きました。

全体的に「目標達成」、「取組は適切かつ有効」の項目が多く、業務活動は評価できる。

評価は簡潔にわかりやすく表現すべきである。目標を達成した場合は、達成したと記述すればよい。

業績指標でアウトプット目標的なもの等があり、国民に分かり難い表現がある。その成果（アウトカム）をわかりやすくすべきである。特に、観測機器等の整備を業務目標にしているものは、業務的な目的をわかりやすく記述すべきである。

平成 14 年度で既に目標値を達成したものがあることから、そもそも目標値の設定が甘かったのではないかと考えられる。今後は、目標値等の設定には、専門家の意見も聞いて決めていくことが必要である。

結果として未達成があるのは、目標の設定（難易度）が高かったということであるが、この状況がある程度続く場合には、専門家の意見を聞いて、設定値を変更する必要があるのではないかと。

これらのコメントは、表 3 - 2 に反映していますが、業績指標と業務目標の表現については、今後とも、わかりやすくを念頭に検討することとしています。